

氏名		Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)		国際コミュニケーション学科	日本文化学科	国際コミュニケーション学科
所属ゼミ		品川ゼミ	徳田ゼミ	畠山ゼミ
Q1	卒業論文のテーマ	『コミュニケーション能力の重要性～教育からの効果的アプローチとは～』	『落語にみる江戸風俗』	『紛争と平和構築』
Q2	テーマを選んだ理由	ゼミでは食、コミュニケーション、環境でテーマを選ぶことができ、その中でもコミュニケーションに興味を持ちました。そしてゼミの中で教授から「教えない教育の重要性」について学び、小学生を対象としたエコサイエンス教室を行うことで、子供たちとのコミュニケーションの難しさや楽しさを知り、教育とコミュニケーションの関わりに興味を持ったため、このテーマを選びました。	以前から興味があった落語の世界を、さらに深く鑑賞するために、そこに描かれている風俗に注目しました。とくに古典落語に描かれている風俗は、近世以前からの日本人の精神文化が反映されているものだと考え、落語を入り口にそれらを調べてみることで、日本文化の独自性がみえてくるのではないかと、このテーマを選びました。	国際政治を勉強するなかで、「地域紛争」が与える影響について関心を持ちました。近年、紛争国で行われる支援は、国際的な取り組みとして注目されるようになりました。しかし一方で、現在まで行われてきた平和構築が、効果的に行えているのかについて疑問を持ちました。復興支援を行う際には紛争の形態に合わせてより柔軟な対応が必要であると考え、紛争を分類し、行われた平和構築を分析することが将来、自信が平和構築を考える際に重要な示唆になると考えました。
Q3	作成スケジュール	・期間 → 約一年半 ・一番時間をかけた部分 → 文献さがしとチームでの話し合いです。 [3年生] 11月 エコサイエンス教室実施(事前準備含む) [4年生] 9月 チームでの話し合いによるテーマ設定 論文のテーマ確定 ↓ 9・10月 文献・資料さがし、話し合い。アンケート結果のデータ化(アンケート:10月) ↓ 11・12月 論文構成の作成(共同提案) 執筆開始(共同執筆) 内容調整の話し合い(複数回) ※11月の後半から12月の提出までは皆でアルバイトなどもなるべく入れないようにすることを決めて、多くの時間を論文作成にあてました。 ↓ 論文提出(2014年12月16日付)	・期間 → 約1年 ・一番時間をかけた部分 → 資料・文献をさがすこと。時間的には執筆の時間のほうが長かったかもしれませんが、図書館で資料を探している時間は気が付くと、あっという間に過ぎていました。 [4年生] 6月 論文の仮題目と仮章立てを決定 執筆と平行しながら文献探し ↓ ひと月の目標を決めてひたすら書く ↓ 論文提出(2014年12月11日付)	・期間 → 約1年 ・一番時間をかけた部分 → 序章の部分。論文の章立てや内容の方向性に関わるため [4年生] 5月 テーマ発表 ↓ 8月 資料集め ↓ 10月後半 執筆開始 ↓ 論文提出(2014年12月16日付)
Q4	卒業論文の書き方はどこで修得したか	先輩方の論文を見せていただき、論文の書き方を習得しました。	ガイダンスに出席したり、卒業論文の基本的な書き方のルールは、ゼミにおいて指導教員による指導をうけました。	主にゼミの先輩たちの論文、論文の書き方の本、インターネットを参考にしました。
Q5	卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	・グループ全員が揃いにくい。 ・何か月も前からあらかじめ、皆で予定を決め、確実に集まれるようになりました。 ・グループの中での意見の相違が少しあったこと。 ・両者がきちんと意見を交換することで、お互いの理解を深め、同じ方向に向かえるようになりました。	パソコンの作業。画像を本文に挿入する際、ページがずれたり、画像を貼りたいところに貼れなかったりしたため、それらを調えるために時間を多く割きました。また、漢字の読み方にルビをふったあとの行の整え方などもよくわからないまま進めてしまったこと。なるべく単純な体裁にまとめました。	情報が少ない、紛争の資料を集めなければならず、論文の検索エンジンや、関係がありそうな機関の論文を検索しました。また、そこで使われている参考文献を探して情報を集めました。
Q6	卒業論文に取り組むときのポイント	・どのような流れで書くのかを執筆前にきちんと考えておくこと。 ・余裕をもって作成すること。(余裕があれば期限内に追われることなく、楽しくできます。)	とにかく、書き進めること。私自身も先輩からうけたアドバイスに「とにかく一行でもいいから毎日書くこと」というのがありました。確かに、書き進めなければ終わらないと感じました。	情報をしっかりと集めること。また、論文の構成をしっかりと練って書き始めるのが重要だと思います。
Q7	参考文献の入手経路	文部科学省の資料などはインターネットを利用し、その他は大学や地元の図書館や本屋で文献を探しました。	東京都立中央図書館、国立国会図書館を利用し、関連のあるものを検索しました。また、区立の資料館などにももかけて、関連資料を見つけたりしました。	論文の検索エンジン(GiNiiなど)や、資料掲載の参考文献。研究に関連しているような機関のHP情報(JICA、JETRO)。
Q8	Q7で回答された方法を用いることのメリット	インターネットの情報は、メンバーが顔を合わせられない時でもグループですぐに情報共有ができました。また本は各々が良さそうな文献を探し、その都度報告をするという形を取っていたので、自分の選んだ文献の視点はもちろん、様々な視点からの文献を発見でき、論文に新たな視点を取り込むことが出来ました。	二つの図書館では、膨大なデータから図書、論文、画像資料まで探すことができました。	資料の収集時間を短縮できること。
Q9	お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	図書館のデータベースはあまり使わず、ネット上の教育関係機関のサイトなどから情報を収集しました。	利用しませんでした。	利用しませんでした。
Q10	失敗(?)をふまえてのアドバイス	・3年生の時から卒論について真剣に考え、準備すればよかったと思います。(4年になると就活や進学準備忙しくなるため。) ・グループ構成もバツと決めるのではなく、やりたい研究をじっくり考えてからやるべきでした。 ・グループ内の論文の統合を、論文ができた後すぐに行うべきでした。	目次を確実に充実させること。特に、章ごとの註や参考文献などを載せたページは忘れずに示すべきだと思います。	・早めに取り掛かっておくことが大事だと思います。 ・執筆の参考にした部分は、本や資料のメモを取っておく(その時一言内容についてのメモ)と、あとで資料を見返す時に便利です。

Q11	図書館に期待すること	<p>・図書館のグループ学習室で話し合うことができたこと。</p> <p>・ノートパソコンを借りることが出来たので、インターネットや執筆途中の論文を見ながら話し合いができたこと。</p> <p>図書館の果たす役割について</p> <p>・可能な限り、蔵書を増やしてほしい。(文献を図書館で探して検索結果にないとその本を様々な機関に探しに行かなければいけないため。)</p> <p>・図書館の閉館時間を延長してほしい(図書館に行ける時間が限られているため)。</p>	<p>図書館主催のガイダンスはとても参考になりました。論文の書き方や文献の探し方、といった基本的なことは学部の授業ではなかなか学ぶことができないですが、その補助を図書館がしてくだされれば、とても助かります。</p>	<p>資料集めでは、検索エンジンを非常に有効に活用させていただきました。私は時間がなく利用できませんでしたが、資料集めで行き詰ったら、相談に行くのも大事だと思います。</p>
-----	------------	--	---	---